

不安定だった気候もようやく落ち着き若葉が薫り、過ごしやすい季節になりました。会員の皆様、お子さまお元気でしょうか。今年はいよいよ「全国重症児(者)を守る会」石川支部結成の年となります。今から準備を整えて8月には有意義な結成大会が開催できるよう皆様のお力もお借りしたいと思っています。

石川支部結成大会の準備始まる

—— 8月1日午後 福祉会館にて ——

第2回総会で決定されたように今年度石川県支部を結成することになりました。そこで8月1日に結成大会を開催するための諸準備を始めています。会場は石川県社会福祉会館に決定しました。「最も弱い者を一人ももれなく守る」という基本精神のもと、この子ども達の幸せのために支部としてどのような事業に取り組むのかまた、行政に何を要求していくのかなどみんなで話し合い、みんなで決め、みんなで活動していきたいと考えています。最近国や地方自治体の財政も厳しくなってきた、福祉や社会保障の見直しも進められており、子ども達を取り巻く環境はますます厳しくなっています。当日は県の厚生部の方に講演をして頂く予定もしています。

ぜひ今から日程を開けて多数参加されるようお願い致します。

8月1日 午後1時～4時 石川県社会福祉会館にて

能登に朗報

えみ

「笑の会」発足



「守る会」の第1回巡回療育相談を受けられた山崎さんが七尾で、就学前の障害を持つお子さんのお母さん達で「笑の会」を発足されました。

会は「明るく笑って子どもとともに生きていく」ことをモットーに掲げて「笑の会」と名付けられました。訓練機関や療育施設の十分ではない能登地区でひとりで悩んでいるお母さん達が集まって悩みを話し合ったり、勉強したり、楽しく遊んだりされているようです。能登地区に心身障害児通所施設の設置に向けた運動にも取り組むということで、私達も応援させて頂きたいと思っています。

今後の計画 5月パーベキュー 6月ムーブメント教室

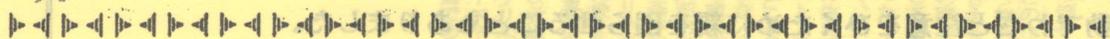


連絡先 〒926-0045 七尾市袖ヶ江町2番地 山崎紀江さん
TEL (0767) 53-2482 能登中部保健所保健福祉課 福浦さん

ブロック研修会 中央情勢報告より

“政府は国立病院・国立療養所に関し、内閣総理大臣に行政改革の報告をするという異例な体制をとり、独立行政法人への移行ということで、具体的な検討を進めている。重症心身障害については「社会福祉法人等への経営委譲をモデルとして実施との現在の方針を更に徹底し、具体的に社会福祉法人への委譲を進めるということである。”という報告を受け、全体会では「特に施設入所に関する措置制度から契約制度への移行は注視しなければならない」という声が高まった。

国立療養所が統合・独立行政法人化しても現在と変わらぬサービスが受けられるよう会としても検討し、問題を把握し、運動を展開していく必要があると思われる。



貸し出しします

ご利用ください。

※かけがえのないいのちを支える人々

大森 黎 著

「第35回文学界新人賞」「第2回読売女性ヒューマンドキュメンタリー大賞」

障害がある子は今、どのように生まれ、この社会の中でどう生活しているのか。障害のある人もさまざまなら、その障害をあるがままに受け入れ支えている人も、実にさまざまだった。

「生き果たすために」・・・では、どう生き果たすのか。このドキュメンタリーでわたしはそのこたえに辿り着いた。これはその報告である・・・はじめにより

※重症児のための楽しい食事への招待

全国守る会編集

本書はルーズリーフ式で45種類の料理のレシピがカラー写真と共に掲載されています。栄養面や介助上のポイント等も整理されており、在宅での日々の生活を豊かにする一助となると思われます。

※いのちを問う

全国守る会編集

「両親の集い」に掲載され、読者に深い感銘を与えた対話シリーズ。各界の識者が、いのちをみつめ、いのちを語る

—— 厚生省推薦

檀ふみ、遠藤周作、日野原重明、柳田邦男、曾野綾子、大熊由紀子、北浦雅子

※泣いて笑ってあっかんべー

松井一美著

声なき声、ある重症身体障害児として生まれた著者の半世紀 —— トーキング
エイドを使って詩や文章、短歌、俳句などで綴られています。

現在は医王病院に入院中

※上記の本は事務局にありますので読んでみたい方は越坂さん(TEL 289-2990)までお申し込みください。

新入会員の紹介

全国守る会・石川守る会・・・正会員

松田博男

中川峻一



石川守る会・・・賛助会員

大久保貴世

若村修

山本久男

前田雅夫

前田和子

現況

正会員 57名

在宅・入所を含む

賛助会員 24名

4歳違いの弟は、小さい頃から母親のひざに乗ることも少なく、全くと言っていいほど泣かない我慢強い子でした。それは小さいながらも、お母さんはお兄ちゃんに手がかかって大変なんだという事を感じ取っていたからなのでしょうか？

とは言っても、全く手がかからなかったというわけではありません。絶えず自分の存在をアピールし続けて、手に負えないいたずらや、聞き分けのない行動でわざと注意をひくために親を困らせることもありました。

こういうことは健全児の兄弟を育てていても同じような事はあると思いますが、どうしても兄の方に手を取られてしまい、かわいそうですが、弟の方にまで手が回らないっていった状況でした。そんな母親のゆとりのない、どうしようもない弟への愛情不足は、やがて、異常なる反抗となって私に返ってきて、ある時、爆発してしまいました。

「お兄ちゃん、お兄ちゃん、お兄ちゃんばかり・・・

お兄ちゃんは、学校に行くのもお母さんの車や・・・

僕は、雨の日も風の日も雪の日も歩いて行くんやよ・・・

僕なんか生まれてこなければよかった。死んだほうがましや・・・」と切羽詰まった心の叫びです。今まで溜めていたものを一気に吐き出したのです



「えっ、そこまで思い詰めていたんだ？ごめんねー！」と心のなかで深く反省し、そんな弟に「お兄ちゃんは、お母さんが世話をしあげないと死んでしまうんだよ。」と説明しながら「君が産まれてきとくれて、お母さんもお父さんも、みんな、みんな、嬉しかったんだよ。君が産まれたから、お母さんはもっとももっと頑張らなければと思ったんだよ。君は大切な大切な子どもなんだよ。死んでもらったら困る。絶対自殺なんかしたらダメやよ、お母さんは何のために今まで頑張ってきたのかわからなくなってしまう。」そう言って弟を抱き締め一緒に泣き続けました。そんな事が今まで3回くらいありました。

静と動の子どもを一人で育てるということは、並大抵ではないという事を嫌というほど思い知らされた出来事です。主人は仕事が忙しく、ほとんど家事、育児にはノータッチです。その分を主人の父母、妹がいろいろとサポートしてくださり、とても助かっています。

今までやってこれたのも、そのお陰だと感謝しておりますが、弟の母親恋しの気持ちまではサポートできなかったのかもしれない。親として、二人の子どもも自分の力で満足に育てる事ができない切なさや悔しさを痛感しています

今後、福祉がもっともっと充実して、親も子どもこんなに苦しまなくても済むような時代、私のような立場の親をサポートして頂けるような時代がくることを切に願っております。

障害児の親が悩み交換

七尾「笑の会」が発足

施設設置の運動も

七尾市を中心に能登地区の障害を持つ子供たちの親が二十八日まで、情報交換の場「笑の会」を結成した。子育てに悩みを持つ親同士の交流の場として活動を続けるほか、能登での心身障害児通所施設の設置に向けた運動にも取り組む。

能登地区では障害児の専門の訓練施設がないため、親子で金沢などに毎日通園する令、月回訓練施設に出掛ける人が多いという。親たちは、「周囲に相談できる人がいない」、「こんな病院に行っていないが分らない」、「親子ともに家に居ても構わない」など計画である。

現在、会員はゼロ歳から四歳児を持つ七尾鹿島や門前町などの母親十人で、基本的には月一回集まり、リハビリの方法や各種施設を紹介しあうほか、専門家を訪問勉強会

「この間、全日本国立医療労働組合や住民でつくっている国立病院・療養所を守り、地域医療を良くする全国連絡会がまとめたもの。請願項目は、①国立病院・療養所の廃止・民営化、地方移譲、独立行政法人化しなごとの地域住民の要求にも

署名すでに150万超す

地方議会の意見書は85に

「国立病院を守り廃止」日までに、百五十万を超え、民営化、独立行政法人化や、意見書を採択した地方議会は、めさせよう」といふ署名が三八八八五五市町村に達し

した。全日本国立医療労働組合や住民でつくっている国立病院・療養所を守り、地域医療を良くする全国連絡会がまとめたもの。請願項目は、①国立病院・療養所の廃止・民営化、地方移譲、独立行政法人化しなごとの地域住民の要求にも

政府は、二〇〇四年度に全国の国立病院・療養所を大幅に削減したうえで、独立行政法人化しようとしている。国立病院は、がんなどの高

度医療だけでなく、高災害医療、難病、難病の医療など、現在の医療では運営が困難な不採算に大きな役割を担っている。独立行政法人化による「得意」の地方議会は、昨年十二月時点で、三倍に増えています。新潟、福岡、熊本、宮城は県議会が採択。また、がすべての市町村で採択

国立病院なくさないで

全医労 著名人が続々賛同

「この国から国立病院をなくさないで」。この間、全日本国立医療労働組合（全医労）が国立医療存続、独立行政法人化反対の運動への賛同を著名人によびかけたと

女性史ノンフィクション作家は「ない」とのべ、「取材で出家の山崎朋子さんは、「医療 かける離島や辺地の診療所のは、本来採算の取れるもので、充実を切望します。無医地区

も少ななく、むしろ国の責任において増やすべきだ」と断言しています。テレビタレントの大橋巨泉さんは、「何でも民営化になると必ず忘れられた人々が出てしまいます。それを防ぐためにたたかうことが、同ずるとして、同時に「た反対でも、対策を出し、合理化できる所はして国立を

「このほか山田洋次さん映画監督、早乙女勝元さん（作家、水戸黄門さん（放送タレント）、マルセ太郎さん（ボートレーサー）、コロムビア・トランス元元院長、石川文彦さん（編者カメラマン）ら二十三人が賛同しています。

「この国から国立病院をなくさないで」。この間、全日本国立医療労働組合（全医労）が国立医療存続、独立行政法人化反対の運動への賛同を著名人によびかけたと

女性史ノンフィクション作家は「ない」とのべ、「取材で出家の山崎朋子さんは、「医療 かける離島や辺地の診療所のは、本来採算の取れるもので、充実を切望します。無医地区

も少ななく、むしろ国の責任において増やすべきだ」と断言しています。テレビタレントの大橋巨泉さんは、「何でも民営化になると必ず忘れられた人々が出てしまいます。それを防ぐためにたたかうことが、同ずるとして、同時に「た反対でも、対策を出し、合理化できる所はして国立を